

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：32661

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26861994

研究課題名(和文) 職場環境改善のためのアセスメントツールの開発

研究課題名(英文) Development of assessments for improving workplace environment

研究代表者

望月 由紀子(MOCHIZUKI, Yukiko)

東邦大学・看護学部・講師

研究者番号：70440253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：抑うつ状態にある労働者に対する職場環境を含めた産業看護職のアセスメントを明らかにする。産業看護職のアセスメントとして、物事に対する認知の特性を把握する、所属する組織の状況を評価する、勤怠状況等の客観的情報を把握する、健康状態が職業生活に及ぼす影響を見出す、家族関係を確認する、健康情報を所属する組織に報告する必要性を判断する、という6カテゴリーを生成した。文献検討を踏まえ、産業看護職は、本人の訴えと客観的情報、本人の立場や職場環境を多面的にアセスメントすることが明らかになった。抽出した原案をもとに、引き続き研究を進めていく必要がある。

研究成果の概要(英文)：This research is to identify the skills for occupational health nurses to assess workers with depressive states. The assessments were organized into the following six categories: interpret perspectives towards issues, speculate on immediate work environment, speculate using objective information such as work attendance, interpret influences on daily and professional lives, speculate on family relationships, and speculate on the need for reporting health information. Occupational health nurses demonstrated of making assessments regarding the immediate work environment and to consider the individual position while estimating what is necessary for workers with depressive states.

研究分野：産業保健

キーワード：産業看護職 抑うつ状態の労働者 職場環境 アセスメント

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省によると、メンタルヘルスケアに取り組む事業所の割合は47.2%(H19調査34%)で近年上昇傾向にあり、その取り組みで効果があった事業所は36.9%となっている(労働者健康状況調査, 2012)。すべての労働者が心の健康問題を抱える可能性があり、身近な問題として捉えて取り組むことが必要である。メンタルヘルスケアで重要としている内容は「職場配慮」65.7%である一方、「職場環境の整備」の重要性が37.5%程度であることから、対応が極めて遅れている。この点を考慮すると、産業保健領域で働く保健師や看護師(以下、産業看護職)は、労働者の職場環境をアセスメントして具体的な整備に繋げることが最優先課題である。産業看護職は、個別事例において、実践経験に基づきながら職場環境への調整を行い、経験知を蓄積しているものの、具体的にどのようにアセスメントして支援しているのかについては明らかにされていない。先行研究では、職場のストレスが経験される職場環境は、単に労働環境や労働条件だけではなく、上司や同僚などの職場サポートが勧奨要因に含まれる(阪井, 2012)。また、環境に働きかける調整機能は、重要な要素であるため、客観的指標を得ることが重要であることが明らかにされている(志々岐, 1992)。しかしながら、予防的視点を踏まえた客観的指標はない。

これまでの研究では、事業所のメンタルヘルス質問項目の分析(河原田, 村井, 2005; 河原田, 村松, 村井, 2006)、人間ドック受診者のメンタルヘルスの早期発見(前口, 2006)、一般的な保健指導の面接技術(畑中, 2012)、NANDAの枠組みを参考に開発された産業看護アセスメントツール(荒木田, 青柳, 梅津他, 2002)、新型うつ事例の特徴と課題(川上, 今村, 小林他, 2015)、メンタルヘルス不調者の治療と就労の両立支援(小山, 黒川, 浅海, 2012)等の二次予防に関する報告がなされている。産業看護職は、個別の健康相談において、アセスメントの結果に基づき、健康課題を把握している。しかし産業看護職が、抑うつ状態にある労働者の状況をどのようにアセスメントしているのかを明らかにした研究は報告されていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、抑うつ状態にある労働者の職場環境を含めたアセスメントを明らかにしてツールを開発することである。

3. 研究の方法

(1) 抑うつ状態にある労働者を支援する要因に焦点をあて既存に明らかにされている先行研究を統合し、その特徴及び内容から構成因子を検討する。文献検索は、医中誌、PABMEDを用いシソーラスを行った。文献検索のキーワードは、「抑うつ」、「労働衛生」、

「労働者」とした。シソーラス用語には、職場の環境要因を示す用語はヒットしなかった。そのため、「労働衛生」の用語には、仕事を労働者に適応させ、労働者を仕事へ適応させる(WHO/ILO, 1950)と定義に含まれていることから、「労働衛生」のシソーラス用語を選択した。検索期間は、1982~2014年とした。

(2) 次に、抑うつ状態の労働者に対する産業看護職の情報収集の特徴と抑うつ状態にある労働者に対するアセスメントの視点を明らかにする。研究参加者は、常勤雇用で事業所に勤務する産業看護職とした。ただし、新人期(1~5年)を除くこととした。

研究参加者のリクルートにあたり、研究者の機縁者に予め参加の依頼を打診して内諾を得た。所属長から承諾を得て、産業看護職に口頭および文書で研究協力依頼を行った。その後は、スノーボールサンプリング法により産業看護職を紹介してもらい、産業看護職13名から研究の協力を得た。

(3) 以上の成果から、職場環境を含めたアセスメントツール原案を作成し、ツールを作成する。

4. 研究成果

(1) 1982~2014年までの論文で「抑うつ」は、医中誌8,604件、「労働衛生」は、医中誌10,164件、「労働者」は、4,481件であった。医中誌にて「抑うつ」、「労働衛生」、「労働者」を掛け合わせ145件であった。このうち、医療系を対象にした論文、同じ研究者が同一ツールで重複する論文、抑うつ労働者を支援する要因が本研究の趣旨とは異なるものを削除し28件となった。PABMEDでは、MeSH検索にて、「Depression」、「Occupational Health」、「Employment」とした。「Depression」は43,881件、「Occupational Health」は、18,639件、「Employment」は28,312件がヒットした。「Depression」、「Occupational Health」、「Employment」を掛け合わせたところ、20件となった。このうち、抑うつ労働者を支援する要因に関連する8件の論文を抽出し、合計36件を分析対象とした。抑うつ労働者を支援する要因の特徴として、「既往歴・現在の状況」「就業状況」「仕事のパフォーマンス」「パーソナリティ」「人間関係」「ストレス状況」「仕事に対する満足度」「ストレス対処法」「ソーシャルサポート」「仕事における能力」であることがあげられた。そして、抑うつ状態にある労働者を早期に支援する研究や介入に有用であることが示唆された。

(2) 産業看護職の属性は、経験年数は、平均19年(範囲8~26年)、面接回数は1回、面接時間は、平均77分(62~80分)であった。取得資格は、保健師8名、看護師5名、産業医の選任は、専属産業医5名、嘱託産業医8名であった。経験年数は、中堅前期(6~15年)4名、中堅後期(16~25年)6名、

ベテラン期(25年以上)3名であった。所属機関の産業保健体制は、専属産業医の配置が必要な常時1,000人以上の事業所は、7カ所、1,000人以下の事業所は、6カ所であった。分析結果として、カテゴリ12、サブカテゴリ65、コード540が抽出された。以下、カテゴリを で示す。食欲、睡眠、腹痛等の身体症状、怖く逃避行動、思考停止等の行動の障害や不安、憂うつ等の感情の障害、物事に対する考え方等の認知の特性や既往歴や期間等の抑うつ状態の継続状況の情報収集も行っていた。また、日々の活動や意欲等の日常生活での状況や家族の状況、仕事における異動や繁忙期等の職場の組織の特性、職業生活での状況、緊急性の状況、加えてキャリアの形成の情報収集も行っていた。また、本人を支えるサポート状況も情報収集を確認していた。

本人の身体的症状、行動の障害、感情の障害、認知の特性等、事例性として対象を理解していた。また、組織の特性、キャリア形成、サポートの状況等、個人と職場の相互関係を連動させ対象を理解していた。

日常生活での状況、家族の状況、職業生活での状況などの日常と職業を生活の枠組みで理解していた。

抑うつ状態の労働者に対する情報収集の特徴として、自覚症状だけではなく、自覚症状に影響する背景要因を客観的に捉えて情報収集項目していた。産業看護職は、個人の健康状態の情報収集をするとともに、組織人としての個人の行動も情報収集していることが明らかとなった。

(3) アセスメントの視点では、インタビューデータから245のコードを抽出し、<思いや現実とのギャップを抱える気持ちについて尋ねる><出来事に対する考え方を理解する><本人の評価の受け取り方を理解する><業務の忙しい時期について尋ねる><周囲の理解の状況について確認する><仕事に対する気持ちの折り合いのつけ方について話題にする><経営的な視点で置かれている状況を確認する><上司が把握している本人の状態を尋ねる><家族への遠慮の気持ちの程度について尋ねる><現在の状況についての相談者の有無を尋ねる><周囲への相談意思を尊重する><仕事への影響について尋ねる><健康管理に必要となる身体的・精神的な状況を確認する>18のサブカテゴリ、物事に対する認知の特性を把握する 所属する組織の状況の評価する 勤怠状況等の客観的情報を把握する 健康状態が職業生活に及ぼす影響を見出す 家族関係を確認する 健康情報を所属する組織に報告する必要性を判断する 6のカテゴリに分類された。本研究の結果示された抑うつ状態にある労働者の産業看護職は、抑うつ状態にある労働者の背景を多面的に理解していた。メンタルヘ

ルス不調者への対応については、本人の自覚症状が、メンタルヘルス不調に関わりがあるのかについて見極めることが困難であると報告されている(萩,大西,近藤他,2009)。メンタルヘルス不調者の中には、出来事に対する認知の隔たりがある(渦川,横田,2011)ため、「ケースを理解」して抑うつ状態にある労働者の「日常生活のあり方」を捉えること(今磯,小西,2007)が必要である。すなわち物事に対する認知の特性を把握することで、抑うつ状態にある労働者の物事への考え方を把握することが重要である。また、事業所に所属する労働者は、所属する組織からの影響を受ける(池上,江口,大崎他,2014)ため、産業看護職は抑うつ状態にある労働者の所属する組織の状況の評価することが必要となる。病欠や欠勤等の状態がある場合には、勤怠状況等の客観的情報を把握することで、本人の状況を判断することに繋がる。抑うつ状態にある労働者が抱えている問題は、本人だけではなく周囲にも影響を与えるため、周囲の理解によっては、職場が不安を抱えたり、仕事を任せられないという悪循環が引き起こされる可能性がある。そのため産業看護職は、本人の訴えと本人以外の客観的情報を把握することで、本人と職場環境の相互関係を包括的・系統的に分析(荒木田,青柳,梅津,2002)していた。また、産業看護職が本人のニーズや全体像を把握するために、本人の意思を尊重しながら健康状態が職業生活に及ぼす影響を見出すことや家族関係を確認することが必要であった。今後の支援体制を検討するためには、本人から同意を得た上で、健康情報を所属する組織に報告する必要性を判断することで、抑うつ状態にある労働者の職場環境や本人の立場を多面的にアセスメントする視点があることが明らかとなった。

(4) 以上の結果から、抑うつ状態にある労働者に対する職場環境を含めたアセスメントに関わる視点を明らかにして、ツールの原案を作成することができた。今後は抽出された原案をもとに、信頼性・妥当性の検証のため、引き続き調査を進めていく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計2件)

望月由紀子: 抑うつ労働者に対する産業看護職の情報収集, 第89回日本産業衛生学会学術集会, 2016年5月26日(福島県福島市).

Yukiko Mochizuki, Emiko Saito: characteristics of the assessment of depressive workers performed by occupational health nurses, 6th International Collaboration for

Community Health Nursing Research,
2015年8月19日(韓国).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

望月 由紀子 (MOCHIZUKI, Yukiko)

東邦大学・看護学部・講師

研究者番号: 70440253